

演題名：食肉安全安心講習会の開催と今後の検討

発表者名：○熊谷佳子 下村文二郎 銘苺愛美

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

沖縄県では、食の安全安心推進条例の推進計画の中で『食品の安全安心の確保に関する情報提供および教育の学習等』をうたっている。今回、『食肉の安全』や『食肉の衛生』に関する適切な情報や教育を受ける機会が少ない子供たちに関心を持ってもらうことを目的として、小学生を対象とした『食肉安全安心講習会』を開催した。講習会后、児童、児童の父兄にアンケート調査を実施した。また、九州各県の食肉衛生検査所の活動事例等についてアンケート調査を実施し、講習内容の向上および今後の進め方などについて検討したので報告する。

2. 実施概要

平成21年7月の3日間（各日2時間）、0小学校6年生児童108名を対象に講習会を小学校で開催した。講習会内容は食肉の安全、食肉の衛生、命の大切さについて行った。講習会后、児童（事前、事後）、児童の父兄（事後）にアンケート調査を実施した。また、九州各県食肉衛生検査所に（第38回九州地区食検協研究部会照会事項議題13参照）独自アンケート調査を実施した。

3. まとめ及び考察

3日間の講習会の結果、児童のアンケートにより、9割以上の児童に講習会の内容を理解してもらえ、また、児童の感想文より講習会開催の意義を感じた。父兄アンケート調査では、7割が父兄参加型の講習会であれば参加したいと考えており、関心度は高い。

また、九州各県の12の食肉衛生検査所にアンケート調査を実施し、8機関から回答を得た。講習会の内容としては、上記とほぼ同じ内容であったが、と畜場の衛生の取り組み、BSE検査の概要、動物用医薬品残留防止対策など対象者に合わせ専門性を持たせた内容もあった。対象者として小中学校教諭、市町村職員、食品衛生指導員などをあげている検査所もあった。市の食肉衛生検査所では、一般市民に向け定期的に市政だより等で食肉の衛生に関する情報の提供や講習会の対象者公募などを行っているところもあった。

沖縄県の現状として、県民の講習会への関心度は高いのに対し、広報力不足から情報の提供や講習会等の開催自体が少ない。現状とアンケート結果をふまえ、より多くの人に講習会に参加してもらい、『食肉の安全』、『食肉の衛生』に対する知識や情報を得る機会を提供することが重要である。一つの案として、小中学校等の教育関係者を対象に講習会を開催する。対象者を教諭にすることで多くの教育現場に講習会の存在を知ってもらえ、より多くの児童たちに講習会を開催することが可能になる。また、児童だけではなく、父兄の講習会への関心度も高いことから、父兄参加型の講習会を検討する。さらに、平成23年度完成予定の食肉センター新設と畜場では見学通路等も設置予定であるため、現在は食肉センターが独自に行っていると畜場内施設見学を、センターと協力して講習会を併せて開催することも今後の検討課題である。